

サイタマレディース探検隊「県庁の星・部長の輪！」シリーズ
第7回 福祉部長 荒井幸弘 様 平成24年4月19日取材



福祉部長荒井幸弘氏を訪問致しました。福祉と言えばとても大きな事業で、私達企業家にとってもご縁のある部署ではないかと思っておりましたところ、まさに行政の要ともいえるほど私達の生活そのものに大きく関わりのある部署でした。県庁に6800人いる職員のうち1025人が福祉に関わっているとのことで、6人に1人という割合の多さにとっても驚きました。人の一生のうち、出産と終末を除くすべての場面で県民に対してサービスの提供を行う部署で、高齢者福祉、障害者福祉、子育て環境の整備、生活保護などとても幅広い事業が行われていました。

東京のベッドタウンと言われる埼玉県の高齢化率は、今のところ全国で5番目に低いとのことでしたが、5年後には4.54%の伸びが予想され、その伸び率は全国1番になるそうです。そんな埼玉県は第1号被保険者保険料（国民健康保険）が高いというイメージをもっていました。月額4,506円は全国的には下から数えて3番目になるというお話しを伺い、認識を新たにしました。

高齢化社会を支えるために介護保険の円滑な運営を図るために、特色ある取組みがなされてきました。介護職員の資質向上と処遇の改善のために介護福祉士試験の受験費用を補助し、資格取得職員の割合を50パーセント以上に向上させました。さらに地域支え合いの仕組みの普及・拡大をはかった結果、平成24年3月末現在32市町で取組まれるようになっています。そして、介護基盤整備事業として特養老人ホームの整備促進を掲げる一方で介護予防の取組みとして、生涯現役のための生きがい対策を、県と企業のコラボレーションにより3カ年計画で行うとのこと。興味のある会員は是非一度福祉部にお邪魔してみたいかがでしょうか。

上田知事が提唱されている「ウーマノミクス」の実現の1つとして、子育て環境の整備が進められています。平成24年度は、4000人の保育サービスの受け入れ枠拡大を図るために保育所等の整備費の市町村負担額を8分の1に軽減するなどして積極的に整備が行われるとのことでした。しかし4000人の枠拡大を行っても待機数削減までには至らないようでしたので、さらに拡大して頂きたいものです。また平成24年3月末現在、赤

ちゃん駅が5,521カ所、パパ・ママ応援ショップの実施が15,141店舗と全国で同様の事業を実施する45道府県で最大規模だそうです。特に平成24年4月1日より、群馬県、栃木県、茨城県、福島県、新潟県の優待事業との連携も開始されましたが、こうした試みが少子化対策の一翼を担っていくのかもしれませんが。

今回の取材で、いかに福祉が大変かということを知りました。サイタマ・レディースとして何かできることはありませんかとお尋ねしましたところ、児童相談所全国共通ダイヤルのPRと障害者の自立支援の1つとして行われている授産製品の販売についてご提案を頂きました。どちらもすぐに協力できることですのでお知らせいたします。

子育ての悩みを抱えている母親や気になる親子を救うために、児童相談所全国共通ダイヤルを設けています。下記にありますように、0570-064-000を皆様の名刺に印刷して積極的に広報して頂ければ幸いです。



また、埼玉県障害者授産事業振興センターでは、障害者授産施設で作られている授産製品の斡旋販売をはじめとした様々な活動を行っています。障害者が心を込めて作った授産製品が販売されていますので、是非ご利用ください。埼玉県庁ホームページの下記アドレスからご覧頂けます。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/site/s212-1/>